令和６年度　第１回　明石市地域総合支援センター運営協議会　要旨

日　時	2024 年（令和 6 年）7 月 25 日（木）14:00～15:30
場　所	明石市役所議会棟大会議室
出席者	委員 12 名（うち欠席 3 名）　　傍聴者 6 名

開会	
議事（１）指定介護予防支援等一部委託事業所について	
事務局（市）	資料 1 に沿って説明
質疑・意見	なし
議事（２）２０２３年度 明石市地域総合支援センター事業報告書について 議事（３）２０２４年度 明石市地域総合支援センター事業計画書について	
会長	議事（２）（３）については３センターずつで区切って進める。３センターごとに質疑のみを受け付け、６センターすべての報告が終わってからご意見をいただく。
資料２、３に沿って東部３センターの報告	
委員	望海校区のプロジェクトで「予望海護」、「ニナゾー」とあるが、これはどういう内容か教えていただきたい。
事務局（センター）	「予望海護」は様々なことの備えのために予防しようという趣旨であり、特に人生会議について地域住民への浸透を図るという意味で令和 5 年度事業報告に掲載している。具体的には様々な機会において住民の方や専門職の方に人生会議の取組を紹介した。専門職の方で人生会議の取組に至る方が少ない現状を確認できたので、令和 6 年度事業計画でも取組を予定している。「ニナゾー」は担い手を増やすという意味から由来している。
副会長	錦城校区の「支援者同士の繋がりプロジェクト」について、必要な情報を必要なタイミングでと説明されていたが、具体的にはどのようなことをイメージしているのか。
事務局（センター）	衣川地区で実施した民生児童委員と介護支援専門員との交流会で、人柄が分からないと連絡先を知っていても連絡をためらうという意見が出た。必要なタイミングについては、民生児童委員から 3 日以上家を空ける場合は連絡をいただけたらという実情を確認できた。 タイミングとしては 3 日以上家を空けて留守にするような時、連絡方法は電話でよいが事前に顔や人柄を知っておきたいという意見をいただいたと認識している。
副会長	望海校区にて、みんなの広場とか 30 代・40 代の方の参加となると出席者が固定することが多いが、その辺はうまくいっているのか。
事務局（センター）	昨年、参加いただいた保護者の方もまちなかゾーン会議のメンバーの方が地域で顔見知りになった保護者の方に声を掛けていただいて座談会を月 1 回、計 12～13 回開催した。その時は 4 名程度の固定メンバーの参加に留まっていたが、最後にみんなの広場を開催した時はその保護者の方が声を掛けていただいた。新しい方を誘ったり、継続していただくのはなかなか難しいかもという所はあった。

資料２、３に沿って西部３センターの報告	
副会長	二見校区にて、認知症にかかる問題が重度化してから相談が入ることが多いと説明されていたが、これについて医療機関にはどう対応してほしいということなのか。
事務局（センター）	問題が重度化（虐待事案、後見制度利用事案）してから各医療機関に相談すると、センターと医療機関との関係構築を含めた応対となるため、事案処理に時間がかかる。そのため、医療機関を巡回する中で普段から関係性を築いておくことが必要であるという趣旨で説明した。実際に検討が必要な事案が発生した際、相談から情報共有、手続までを円滑に進められるようにしておきたいと考えている。
委員	高丘校区での認知症カフェについて、一般の１人暮らしの高齢者の方も参加していて、毎回 20 名以上が集まるとあるが、男性高齢者の割合はどれくらいか。また、認知症ではなく一般の方が自由に語り合えるとあるがどのようなことを話されているのか。
事務局（センター）	男性は 6～7 名程度が参加されており、認知症カフェの立ち上げのメンバーから男性がいらっしゃる所もある。立ち上げの段階から男性を巻き込んでいこうとされている所や参加者の方からカラオケが好きだという意見があったので、男性が楽しめるようなプログラムに取り組むという所で工夫をしている。参加者の方や立ち上げメンバーの興味があることに沿って計画していくスタイルを取られている。
会長	ここまで６つのセンターの事業報告･計画について説明いただいた。どこの地区も地域課題を見つけて、解決に向けて取り組んでいることがよくわかった報告だったのではないかと思う。ただ、説明では焦点化して報告いただいた。委員の方でここの方が気になるという所があるかと思うので、そのようなことも含め、忌憚のないご意見をいただければと思う。
委員	きんじょう・きぬがわ総合支援センターから介護支援専門員と民生児童委員の交流会について説明がなされたが、自身も先日自分の事業所の交流会に参加した。民生児童委員と直接対面して情報・意見交換する場を持てたことがよかった。その中で救急れんらくばんについて先程の事業報告にもあったが、書式をダウンロードできる形になっていない。地域総合支援センターで用紙をもらい、手で書いているが、事業者や介護支援専門員が変更されたり、担当者が退職する等、更新頻度が高い。修正する場合も修正テープを使用している。例えば、ダウンロードができるとか電子端末で入力できるような形であれば介護支援専門員も活用できるのではないかと思う。例えば、衣川地区の介護支援専門員が二見の被保険者を担当していたり、神戸市にいる介護支援専門員が魚住や二見を担当していることもある。せっかくよいツールがあるのでもっと使い勝手がよくなり、さらに活用できればと思うので、説明させていただいた。
事務局（市）	貴重なご意見ありがとうございます。地域総合支援センターの様式としては救急れんらくばんともしものそなえシートがある。もしものそなえシートはダウンロード可能だが、救急れんらくばんはダウンロードできる形にはなっていない。救急れんらくばんについて、ダウンロードが可能かどうか、直接ダウンロードしてデータを加工できるか

	どうかについて持ち帰り検討する。
委員	救急れんらくばんの話と関連するが、ひとり暮らし台帳とは別に要支援者台帳がある。民生児童委員はひとり暮らし台帳と要支援者に何かあった場合、要支援者台帳を確認するが同じことである。先日、高年福祉専門部会で各台帳を１つにできないか確認したが、管轄部署が異なるので１つにはできないと言われた。今度は救急れんらくばんに服薬状況とかかりつけ薬局も記載したらどうかという議論が出ているので、紙での取扱はしばらく続くと思われる。
会長	同じような内容のものが複数あり、一方は更新されるが、もう一方は更新されないままになり、どちらが最新かわからなくなることはどこの自治体でもよくある。部署が異なるという理由で統合を検討できないのはどうなのか。誰のための仕事なのかということをもう少し考えた方がよいのではないかということを厳しく代弁しておきたい。 今の話をお伺いしてもそうだが、データベースになるようなものが共通化できるのかということがすごく大きなテーマになるのではないかと思う。地域総合支援センターにかかる情報に加え、介護保険においてもＩＣＴ化は進められているので、介護保険と統合させていくことを見据えないといけないと思われる。これからは人手不足になり、限られた人材で業務を処理していく必要があることを考えると、データベースの共通化について整備をしていかないといけない状況になってきているのは明石市に限ったことではない。今後、ＩＣＴ化やデータベースの共通化については個人的にも思う所だが、話を聞いていてもそのようなことが望まれているだろうなという所があったかと思う。
委員	明石は今年度で人口が 306,000 人を超えた。昨年度より 1,000 人増えている。その中で障害者手帳保有者が 17,700 人を超えている。人口割にすると 17.5 人に 1 人が所持している。また、認知症の方は手帳を持っていないことを踏まえると、様々な障害を持つ方がかなり近くにいらっしゃるのが事実だと思う。 地域総合支援センターの業務は幅広く、様々なプロジェクトを実施しているのはとてもよいことであり、続けていただきたい。ただ、もっとセンターに人員配置していかないと追いつかない部分も出てくるかなと思ったりする。障害者だけでなく、障害者に近い方も含め、施設に入所するような方は障害があることが目に見えてわかるが、施設に入所しないような障害があるとわかりにくいような方もかなりいるのが事実である。先程、会長がＩＣＴ化について説明されたように、訪問看護でもｉＰａｄを利用して情報共有しているので、介護支援専門員も利用することで情報共有が早く済むと思う。現実的にやろうと思えばできることであり、様々な形でも共有できると思うので、こういうことも１つ提案いたします。
会長	限られた人員で様々な業務を実施していることは運営協議会の委員の皆さんがよくご存じかと思う。この精一杯の所で成果を上げていくというのはあるが、一方で労務管理も重要である。他市の社会福祉協議会の職員と話していても、休んだら悪い気がするということで、土日に地域のイベントに出たりしてずっと仕事をしている。やらなけ

	ればならないということが先に立ち、休まずに働き続けるケースがよくあったりするので、それに頼っていてはいけない。 　運営協議会でも労務管理については共通認識として持っておく。労務管理を改善するためにはＩＣＴに予算をつけるのか、人に予算をつけるのかという気はするので、労務管理を支援していくという意味では非常に重要な意見だったのではないかと思う。
委員	今の話に関連するが、自身も様々なセンターの会議や活動を見ていると、少しオーバーではないかということをすごく思う。出向できていた方が戻られた時や定年で辞められた後に新しい職員が入ってこない。事業はそのまま継続しているが、土日に開催する夏祭りや地域の懇談会にも出ていただいて、この人たち休んでるのかなと思う時がある。限られた人数で大きな範囲のことをなさっているので、もう少し人手があればよいのではないかと思う。
会長	ありがとうございます、強力な意見をいただいたかと思う。本日、欠席の松下委員からご意見をいただいているということなので、事務局からお願いします。
事務局（市）	今回、松下委員から報告書及び計画書について事前に意見をいただいておりますので事務局から報告いたします。 　１つめは様々な取り組みをされているのはとてもよいことなので、開催場所を増やしていただければとのことでした。ご自身は障害をお持ちであるため、開催場所が遠い場合や体調が合わない時は参加が難しく、参加できそうな企画でもこのような体でも参加してよいのだろうか、ヘルパーによるサポートが必要だろうかと考えているうちにイベントが流れてしまうとのことでした。こうした不安な点がクリアになれば参加しやすくなると思うので、まずは身近な場所で開催していただければとのことです。 　２つめは障害を抱える方同士が集まり、話し合える機会があるとよいとのことでした。高齢者の方の集まりは多いが、障害者の方の集まりは少ないため、外に出る機会を作ることができずに、自宅に引きこもったままになってしまうとのことでした。また、認知症はイベント等を通じて身近になってきたが、他の疾患についてはスポットが当たることが少ないため、パーキンソン病など周囲の理解が必要な疾患についても視野を広げていただければとのことです。家族と同居している障害者の方の場合、外に出ない日が続くと支援する家族もストレスが積み重なっていくため、レスパイトという意味で外に出る機会があるとよいとのことでした。そのような交流の機会があれば、自身の体の状態のことについて、他の障害をお持ちの方と話すことで共有していきたいとのことでした。また、情報共有することで、生活しやすくなったり、もっと頑張ろうと思えることに繋がるとのことです。
会長	ありがとうございました。まず、障害者の方への支援やサポートは地域総合支援センターと謳っている限りは非常に重要な所になるのではないかと思う。障害をお持ちの方も 10 年・20 年先になれば高齢者になっていくということと、これからおそらくこの 3 年くらいで障害かつ高齢という方が爆発的に増えることが介護保険事業計画でも言われている。今度は障害サービスから介護サービスにどう移行していくのかが、この３年間で現場に相当大変な思いをさせてしまうであ

	ろう課題として出てくるのではないか。また、障害者同士のＰＲのような形での支え合いということも同時に作っていかないといけないことを今の意見からいただけたのではないかと思う。
委員	回答できる範囲で構わないが、昨年度の認知者数について、この 1 年でどれくらい何人増えたか、参考のために教えていただきたい。
会長	分かれば、またお伝えいただければと思います。
委員	子どもや若い世代に興味を持ってもらえるような取組ということで人生会議が話題になっている。明石市看護業務連絡会でも、もしものときの備えシートや救急れんらくばんをどのように普及していったらいいか話をしていた。広報あかしでも取り上げられていたので、病院にも置いたらどうかということだったが、病院ではなかなか普及しないという現状があった。 先程の取組という所で看護業務連絡会の中で看護フェアというイベントを実施している。地域総合支援センターの方々にもしものときの備えシートや救急れんらくばんを用意していただいて、配布するというかコーナーを作ってもらった。実際に 50 部用意したが 49 部が捌けた。イベントが母の日の前だったので、「母ともこういう話をしないといけないので、いいタイミングだった」とかこういうことを真剣に考えないといけないんだなということでシートを持ち帰られて「自分でも考えてみます」と言われたことを先日の会議で共有した。 病院で配布するのではなく、イベントの時にこういう話に興味を持っていただく方がよいので、来年も健康診断や講座を受けながら横に資料を置いて、若い方に拡散しようかと思う。土日にイベントをされているのであれば、窓口を設けて、若い方に提案してくのもいいかと思う。
会長	すごくいい感じの提案だと個人的には思う。このような取り組みは医療職の方と一緒に行うのがすごく意味のあることだと思う。医療職と一緒にどのように取り組むかわからないという所で福祉職に戸惑いがあると思うが、せっかく意見をいただいているのでこれを機に一緒に実施したり、イベントごとにそのようなブースを設置することで看護師から見れば、違う視点で話をしてもらえる所がでてくるので今の意見を参考にしていただければと思う。
会長	今まで話をしていただいた中で、今後のセンター運営にもすごく参考になる意見が出された。どうしても高齢者の人数の方が圧倒的に多いため高齢者に比重が行きがちであるが、障害者や子どももいるという所を事業報告と計画を見るとよくわかると思う。地域総合支援センターの事業は単年度で成果が出て、終了ということはほぼない。事業をいかに継続していくのか、継続する中で課題を 1 つずつ解決していくことがひいてはセンターの活性化につながるし、明石に住む住民の方が地元にすごく愛着を持ってくれるきっかけになっていくのではないかと思う。このような取組は今日明日ですぐに出来上がるものではないので、何年何十年もかけて愛着をはぐくんでいくことがすごく大事な取組になってくるかと思う。そのためには地域総合支援センターが頑張らないといけないというのはあるが、頑張りすぎて人がいなくなるのが一番よくないので、そうならないように労務管理を含め、職員が働きやすい、働きがいのある職場を目指していきながら住民の

	方と一緒にやっぱり地域総合支援センターは地域になくてはならないという運営をすることがすごく大事になるのではないかと思う。引き続き地域支援、個別支援、要望が挙がってくるが、積極的に取り組んでいただければと思う。
その他、事務局（市）からの連絡	
閉会	